

第 22 回

ナショナルバイオリソースプロジェクト「ゼブラフィッシュ」

運営委員会議事録

日時：2022年8月30日（火）10:00～12:00

場所：オンライン

実施機関：岡本仁(理化学研究所CBS)，吉原良浩(理化学研究所CBS)，川上浩一(国立遺伝学研究所)，酒井則良(国立遺伝学研究所)，東島眞一(基礎生物学研究所)

運営委員：石谷太(大阪大学)，伊藤素行(千葉大学)，川原敦雄(山梨大学)，菊地和(国立循環器病研究センター)，久保郁(国立遺伝学研究所)，津田佐知子(埼玉大学)，島田康人(三重大学)，西谷直之(岩手医科大学)，平田普三(青山学院大学・委員長)，政井一郎(沖縄科学技術大学院大学)，松井秀彰(新潟大学)

NBRP：鈴木智広(NBRP事務局)，高祖歩美(NBRP広報室／国立遺伝学研究所)，川本祥子(NBRP情報センター／国立遺伝学研究所)，柿沼久哉(理化学研究所CBS)，石岡亜季子(理化学研究所CBS)

文部科学省研究振興局ライフサイエンス課：中川原秀樹，齋藤正明，米光理紗，古田和輝(敬称略)

議題

1. 委員紹介
2. 事業報告
3. 第5期NBRPの概要と課題
4. 海外のリソース事業との連携状況
5. 産業界や毒性試験でのゼブラフィッシュ活用
6. 小型魚類研究会コミュニティ・ミーティングでのアナウンス
7. その他

報告および審議

1. 委員紹介（平田）

委員会の趣旨の確認と委員の紹介があった。

2. 事業報告（岡本，川上，東島）

実施機関の代表者より下記の点について報告があった。資料は事前にメールで委員に配布された。

- (1) 事業規模の概略
- (2) 2021年度の会計報告
- (3) 2022年度現時点までの会計報告

- (4) 2021 年度の事業実績
- (5) 2022 年度現時点までの事業実績
- (6) データベースの現状と更新状況
- (7) その他

実施機関の会計および事業内容について承認された。

- ・ 人件費高騰について

理化学研究所では任期制職員の給与改定があり人件費が増加している。一方で補助金額は減少しており、2022 年度は前年度の雇用を維持できない状況にあると報告された。議論の結果、現状の実施体制を維持するために実費徴収の価格を上げることを検討することとした。

- ・ データベースについて

遺伝研のデータベースはシステム老朽化に伴う不具合がときどきあるが、NBRP のウェブサイトと連動する機能は維持できており、第 5 期中に改善を検討する旨、報告があった。

- ・ 提供先の傾向について

リソースの提供先として国内の割合が増加している。その原因として、研究の活性化による国内需要の純粋な増加および新型コロナウイルス感染拡大による国外からのリクエストの減少が挙げられ、今後も注視することとした。

3. 第 5 期 NBRP の概要と課題（岡本，川上）

(1) 第 4 期 NBRP の事後評価

第 4 期の NBRP の事後評価結果が事前に委員に配布され、内容の詳しい説明があった。

(2) 第 5 期 NBRP の事業内容

前回までの委員会で既に承認されている通り、第 5 期も第 4 期の実施体制を維持する旨が説明され、あらためて承認された。

(3) 第 5 期 NBRP の実施体制の展望

世代交代を含めた今後の実施体制の展望について説明があった。

- ・ 謝辞について

リソースを利用した研究の論文が発表される際、リソースの開発者に謝辞がある一方で NBRP への謝辞がないケースが見受けられる。これを改善するためには NBRP への謝辞を論文に明記するようユーザーのコミュニティにもっとアピールする必要があると意見があった。

- ・ ユーザーの拡大について

近年リソースを利用して神経科学の分野を中心に優れた研究成果が論文発表されている一方で、日本のゼブラフィッシュの研究分野は神経科学に偏向している側面もある。2024 年に日本で開催される予定のゼブラフィッシュ研究の国際学会 (IZFC18) 等を利用し、幅広い

分野の研究者に日本のゼブラフィッシュのリソースを利用してもらう気運を高めたいとの意見があった。

4. 海外のリソース事業との連携状況(岡本)

今後の展望として、NBRPのリソース情報の更新をZFIN(ゼブラフィッシュ国際ネットワーク)のデータベースに反映させたいとの説明があった。また、NBRPのリソースと交配してできたダブルトランスジェニックをZIRC(米国のゼブラフィッシュリソースセンター)に寄託したいという要望があるとの説明があり、議論の結果、今後もZIRCや欧州のストックセンターと連携し慎重に対応することとした。

5. 産業界や毒性試験でのゼブラフィッシュ活用(小島)

医薬品の生殖発生毒性試験の国際ガイドライン(ICH-S5)の改訂について、小島委員から動画で説明があり、ゼブラフィッシュ胚を用いた代替法試験が検討されていると報告された。

6. 小型魚類研究会コミュニティー・ミーティングでのアナウンス(平田)

ユーザーが集まる小型魚類研究会のコミュニティー・ミーティングにおいて、岡本からNBRPの事業紹介をすることとした。寄託を遠慮するユーザーが少なくないとの指摘があり、寄託の促進を呼びかけることとした。

7. その他(岡本)

2024年に日本で開催される予定のIZFC18について情報共有され、意見聴取が行われた。

→ 9月2日に開催された小型魚類研究会のコミュニティー・ミーティングにおいて、第4期NBRPの事後評価および第5期NBRPの事業内容を報告し、ユーザーからの要望を聴取した。合わせて、積極的な寄託・提供の利用や、論文発表時の謝辞記載についてユーザーに呼びかけた。